

MENU

SEARCH

INDEX

DETAIL

JAPANESE

1 / 1

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2001-328503
(43)Date of publication of application : 27.11.2001

(51)Int.Cl. B60R 21/22
B60R 21/16
B60R 21/20

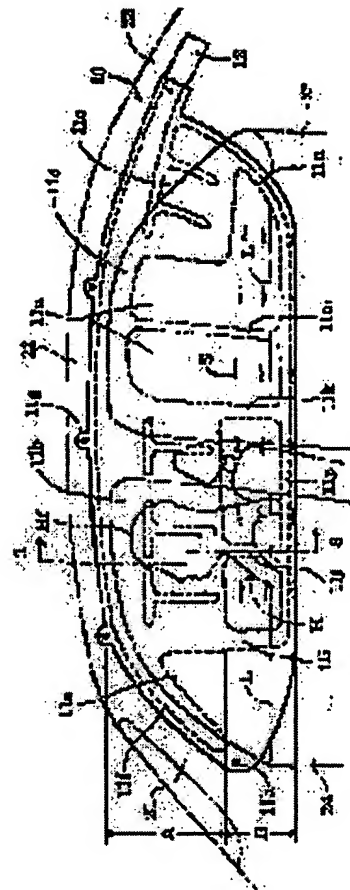
(1)Application number :	2000-148727	(71)Applicant :	TOYOTA MOTOR CORP
(22)Date of filing :	19.05.2000	(72)Inventor :	ONO MITSUYOSHI

(54) HEAD PROTECTION AIR BAG DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To improve a function : suppressing the quantity of a part of the body of an occupant moving in the car outside direction in rollover time without enlarging an inflator in a head protection air bag device.

SOLUTION: This head protection air bag device 10 is so constituted as to protect the head Hf of the occupant by inflating and expanding an air bag 11 into a curtain shape at the side part in a cabin by feeding gas from the inflator 12. The air bag 11 is provided with a head protection inflation area A having thick inflation parts 11b and 11c positioned on the side of the head of eth occupant and an extension inflation area B having thin inflation parts 11i, 11j, 11k, 11m, and 11n extending from the bottom end of the head protection inflation area A to the bottom position of a door belt line L.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 13.09.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3520836

[Date of registration] 13.02.2004

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-328503
(P2001-328503A)

(43) 公開日 平成13年11月27日 (2001.11.27)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マ-ト* (参考)
B 6 0 R 21/22		B 6 0 R 21/22	3 D 0 5 4
21/16		21/16	
21/20		21/20	

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2000-148727(P2000-148727)

(22) 出願日 平成12年5月19日 (2000.5.19)

(71) 出願人 000003207

トヨタ自動車株式会社

愛知県豊田市トヨタ町1番地

(72) 発明者 大野 光由

愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内

(74) 代理人 100088971

弁理士 大庭 咲夫 (外1名)

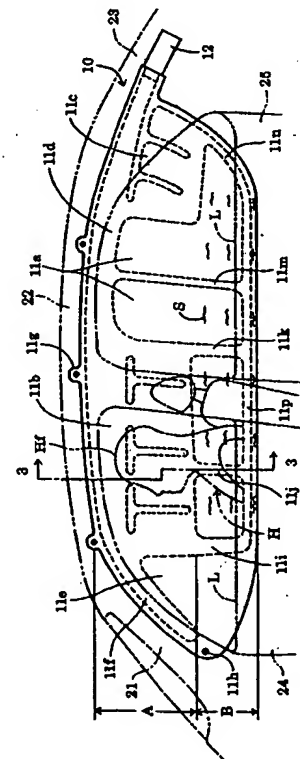
Fターム(参考) 3D054 AA07 AA16 BB21 CC08 CC20
CC29

(54) 【発明の名称】 頭部保護エアバッグ装置

(57) 【要約】

【課題】 頭部保護エアバッグ装置において、インフレーターを大型化することなく、ロールオーバー時に乗員の身体の一部が車外方向へ移動する量を抑制する機能を改善すること。

【解決手段】 インフレーター12からガスが供給されることにより車室内の側部にてエアバッグ11をカーテン状に膨張展開させて乗員の頭部Hfを保護するようにした頭部保護エアバッグ装置10において、エアバッグ11が、乗員の頭部側方に位置する厚みの大きい膨張部11b、11cを有する頭部保護膨張エリアAと、この頭部保護膨張エリアAの下端部からドアベルトラインLの下方位置まで延びる厚みの小さい膨張部11i、11j、11k、11m、11nを有する延設膨張エリアBとを備える構成とした。



き、エアバッグの内圧保持性能の改善効果を期待することができる。

【0009】この場合において、延設膨張エリアにその膨張部の内圧上昇に伴って切れるティアシームを設けた場合（請求項3に係る発明）、または頭部保護膨張エリアを蛇腹折りとし、延設膨張エリアをロール折りとした場合（請求項4に係る発明）には、頭部保護膨張エリアの膨張展開に比して延設膨張エリアの膨張展開を低コストにて的確に遅らせることができ、側突時の乗員頭部保護とロールオーバー時の身体部分車外放出防止を含む乗員保護とを安価にしかも適切なタイミングで行うことができる。

【0010】また、本発明の実施に際して、延設膨張エリアの下縁に沿って小径の形状保持用ガス通路を設けた場合（請求項5に係る発明）においては、インフレーターから延設膨張エリアの形状保持用ガス通路に供給されるガスにより、延設膨張エリアを所定の膨張展開形状にて保持することが可能であり、ロールオーバー時の身体部分車外放出防止の性能を向上させることができる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。図1は本発明の頭部保護エアバッグ装置10を示している、この頭部保護エアバッグ装置10は、車室内の側部にてカーテン状に膨張展開して前席乗員Hの頭部Hfと後席乗員の頭部（図示省略）を保護するエアバッグ11と、このエアバッグ11にガスを供給するインフレーター12を備えている。

【0012】エアバッグ11は、基布（織物）に気密保持用のコーティングを施してなるもので、図1の略上半分で構成される頭部保護膨張エリアAと、図1の略下半分で構成される延設膨張エリアBを備えている。頭部保護膨張エリアAは、中央の非膨張部11aを挟んで前後に前席用膨張部11bと後席用膨張部11cを有し、後方上部にガス導入部11dを有している。また、頭部保護膨張エリアAは、前方下部に非膨張部11eを有し、前方上部に膨張部11fを有していて、上縁部に複数個の取付片11gを有している。なお、前方上部の膨張部11fは、フロントピラー21に対して前席乗員Hの頭部Hfを保護するものであり、前席用膨張部11bの前方上部からフロントピラー21の下縁に沿って延設され

ている。

【0013】前席用膨張部11bと後席用膨張部11cは、前席用膨張部11bを例として図3に示したように厚みの大きい（厚みが100mm程度の）幅広の膨張部であり、膨張展開状態では乗員Hの頭部Hf側方に位置している。なお、前席用膨張部11bに設けられている3個のT字部（図1参照）は、前席用膨張部11bを複数の小さな膨張室に区画するための非膨張部である。また、後席用膨張部11cにも、後席用膨張部11cを複数の小さな膨張室に区画するための非膨張部が設けられ

ている。

【0014】一方、延設膨張エリアBは、前席に対応して上下方向に延びる3個の膨張部11i, 11j, 11kを有し、後席に対応して上下方向に延びる膨張部11mと傾斜して下方に延びる膨張部11nを有していて、残部は非膨張部となっている。また、延設膨張エリアBの非膨張部には、頭部保護膨張エリアAが膨張展開した後に、延設膨張エリアBが膨張展開するように、各膨張部11i, 11j, 11k, 11m, 11nの内圧上昇に伴って切れるティアシームS（剪断可能な糸で縫い合わせた部位）が6箇所（図1の波状部と、図4及び図5参照）に設けられている。

【0015】また、延設膨張エリアBの下縁には、各膨張部11i, 11j, 11k, 11m, 11nの下端にそれぞれ連通し前後方向に延びる小径の形状保持用ガス通路11pが設けられている。各膨張部11i, 11j, 11k, 11m, 11nは、膨張部11jを例として図3に示したように厚みの小さい（厚みが40mm以下の）幅狭の膨張部であり、膨張展開状態では頭部保護膨張エリアAの下端部からドアベルトラインL（各ドア24, 25の窓開口下縁）の下方位置まで延びている。また、各膨張部11i, 11j, 11kは、上端にて頭部保護膨張エリアAにおける前席用膨張部11bの下端に連通しており、膨張部11nは、上端にて頭部保護膨張エリアAにおける後席用膨張部11cの下端に連通している。なお、膨張部11mは、頭部保護膨張エリアAにおける中央の非膨張部11aを分断して上方に延び、上端にてガス導入部11dに連通している。

【0016】上記構成のエアバッグ11は、前端部に設けた取付孔11hにてボルトとナット（共に図示省略）を用いて車体のフロントピラー21に組付けられるとともに、各取付片11gにてボルトとナット（共に図示省略）を用いて車体のルーフサイドレール22に組付けられている。また、エアバッグ11は、図2にて示したように、折り畳んだ状態にてフロントピラー21とルーフサイドレール22とクォーターピラー23に沿って収納されて、下縁部が弾性変形可能なフロントピラーガーニッシュ（図示省略）と、弾性変形可能なルーフヘッドライニング（図示省略）の周縁部と、弾性変形可能なクォーターピラーガーニッシュ（図示省略）により覆われるようになっている。

【0017】インフレーター12は、車両の側突時等にガスをエアバッグ11に向けて噴出するものであり、クォーターピラー23に沿って傾斜して配設されていて、ブラケットとボルト（共に図示省略）を用いてクォーターピラー23に組付けられており、その前端部はエアバッグ11のガス導入部11d内に気密的に嵌合している。また、インフレーター12は、エアバッグ11におけるガス導入部11dの後端部とともに、クォーターピラーガーニッシュによって覆われるようになっている。

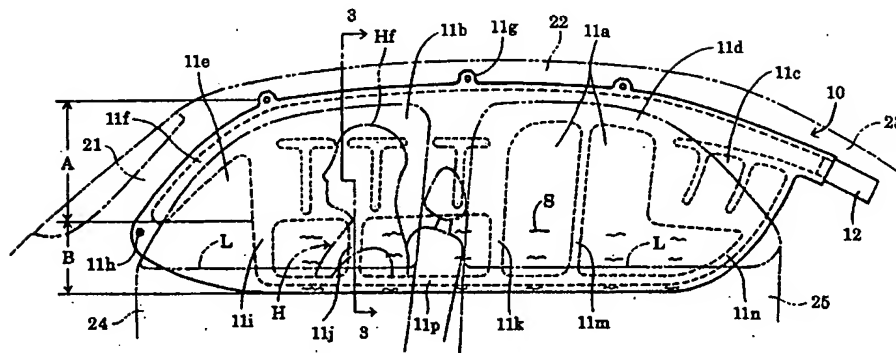
開する際のエアバッグ内圧の変化とエアバッグ容量の変化を示すグラフである。

【符号の説明】

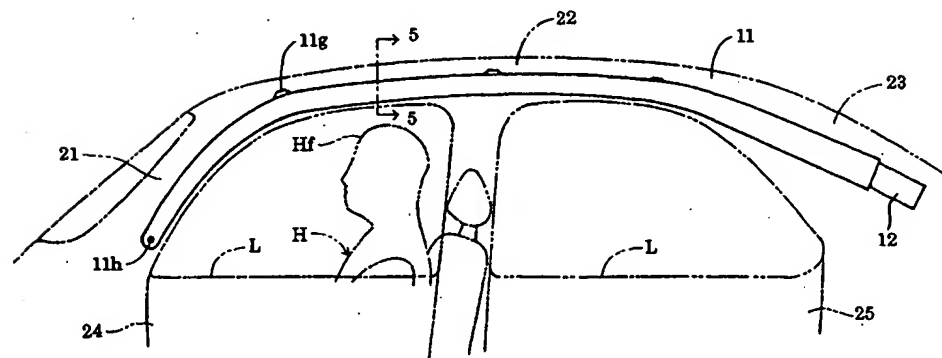
10…頭部保護エアバッグ装置、11…エアバッグ、A…頭部保護膨張エリア、B…延設膨張エリア、11a…中央非膨張部、11b…前席用膨張部（頭部保護膨張エリアの厚みの大きい膨張部）、11c…後席用膨張部（頭部保護膨張エリアの厚みの大きい膨張部）、11d

…ガス導入部、11e…前方非膨張部、11g…取付片、11i, 11j, 11k, 11m, 11n…膨張部（延設膨張エリアの厚みの小さい膨張部）、11p…小径の形状保持用ガス通路、S…ティアシーム、H…前席乗員、Hf…前席乗員の頭部、12…インフレーター、21…フロントビラー、22…ルーフサイドレール、23…クォータービラー、24, 25…ドア、L…ドアベルライン。

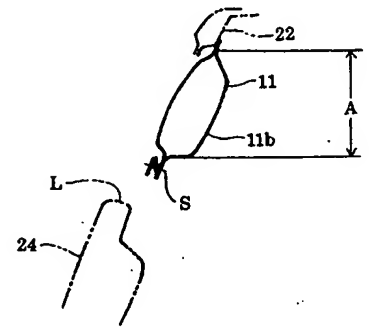
【図1】



【図2】



【図4】



【図5】

